

東海ラジオ

「風雲放談」に岸田首相が出演

「戦時下のウクライナ訪問に強い印象」

本誌コラム筆者の石原代議士に誠実応答

本誌連載中の「風雲コラム」の筆者で衆院議員の石原まさたかさんが出演している東海ラジオの番組「風雲放談^(※編注)」に岸田文雄首相がこのほど2回にわたって登場した。総理大臣がローカルラジオ局の通常番組に出演したのは極めて異例。通常国会終了直後の6月22日に首相官邸で収録、岸田首相は石原さんの率直な質問にも一つずつ誠実、丁寧に答えていた。東海ラジオの承諾を踏まえて「放談」の内容をお伝えする。

石原 総理在職1年9カ月が過ぎました。コロナ禍にロシアのウクライナ侵略、G7広島サミットなど大きな政治課題に直面されました。中でもサミットは大きな外交的成果と内外から評価され、ゼレンスキーウクライナ大統領の来日は国民の印象に残りましたが、大統領来日の意義などについてはどうお考えですか？

岸田総理 ウクライナのゼレンスキー大統領の広島訪問については、戦時下の現職大統領が日本に来られるということで安全面への配慮、情報管理に細心の注意を払いつつ水面下で調整する必要がありました。準備段階から骨の折れる訪問でしたが、私とは3月にキーウでお会いして以来の再会でサミットでの議論はいつそう充実したものになりました。大統領の広島平和記念公園訪問は、核兵器の脅威は77年前の昔話ではなくて、現に核によってさまざま威嚇されている国の大統領が広島を訪問したわけで、核の脅威とは、いまわれわれ自身が直面して解決していかなければならない問題だと、世界に

まざまざと示す重要な機会にもなったと思っています。

大統領自身が「訪日したい」と

石原 大変困難なミッションでしたね。戦時下の大統領をお迎えしたのは日本の戦後史でも初めてのことで、総理の強い意思が現れたとも言えますが、その発案者はどなたですか。

総理 いまウクライナで起こっていること、要は力による一方的現状変更であり、ルールや国際法によるものではないことが起こっている。こういったことを許すと世界のどこでも起こりかねない。弱肉強食というような世界をまた現代に引き起こしてしまうことで、あってはならないこと。私のキーウ訪問というのは、日本の総理大臣として戦後初めて戦争している国を訪問したものでした。大きな意義があったゼレンスキー大統領の来日ですが、当初はオンライン参加をお願いしていました。しかし、大統

(※編注) 東海ラジオの番組「風雲放談」 正式には「石原まさたかの痛快!風雲放談」。毎週土曜日午後6時45分~7時にオンエア。野球中継などの都合によって時間は変わることがある。